

K. I. 2025年卒 地域マネジメントコース

## こんな学生時代を過ごしました

私は4年間の大学生活で、「ゼミ活動」と「部活動」の2つを軸に学びを深め、大きく成長することができました。

所属していた眞鍋ゼミでは、「教育 × SDGs」をテーマに活動を行い、高校の探求授業で実際に教壇に立ち、生徒にキャリア教育やSDGsの理解を促す授業を担当しました。もともと教員になることが夢だった私にとって、生徒と関わる経験は非常に貴重で、胸が高鳴るものでした。しかし現場に立つと、自分が“学び理解すること”と高校生に“伝え、伝えること”の間に大きな隔たりがあることに気づきました。そこで、教員ではなく大学生という立場だからこそできる関わり方を考え、ゼミ生全員で試行錯誤しながら、生徒が自分事として捉えられる授業づくりに取り組みました。

また大学2年生からは、女子ラクロス部に入部しました。1年生の頃は学業に不安があり、部活動への参加をためらっていましたが、「後悔したくない」「最後の学生生活を充実させたい」という思いから挑戦を決意しました。ラクロスは大学から始める競技で、全員が初心者でした。そのため、過去の経験ではなく“努力した分だけ成長できる”環境でした。私たちは「九州制覇」という大きな目標を掲げ、自分たちでチーム運営を行い、北九大歴代最高の成績を残すことができました。道のりの中では大きな壁にも直面しましたが、中間目標を設定し、段階的に課題を克服することで、全員が目標と現実のギャップを埋めながら成長できました。

このように私は、北九大での学生生活を通じて、多様な経験から主体性・協働性・課題解決力を培い、大きく成長することができました。

## 卒業後こんなキャリアを歩んでいます

私は今年の春から、九州・山口で事業を展開する総合不動産会社に勤務しています。大学時代のゼミ活動がきっかけで現在の会社を知り、その活動を通して会社の魅力に触れたことで、「ここで働きたい」と心から思い、入社を決めました。

初めての配属は、住宅を建てるための「土地」を仕入れる営業職でした。学生時代には聞いたことのない専門用語や知識に戸惑い、不安も大きくありました。しかし、学生時代に培ったコミュニケーション力と、「今の自分にできること」を常に考えて行動する姿勢を活かし、試行錯誤しながら少しずつ業務に慣れることができました。現在では毎日が新しい発見の連続で、充実した社会人生活を送れています。また、不動産業界で働く上で不可欠な資格試験にも1年目から挑戦しました。合格という大きな目標に対し、段階的な学習計画を立てることで、仕事と勉強を両立し、無事に合格することができました。

社会人1年目は、会社や社会に対して大きく貢献できることはまだ多くないかもしれませんが、しかし、そこで立ち止まるのではなく、自身のキャリアの目標を明確にし、逆算して段階的に目標を積み重ねる「終わりを思い描く生き方」を実践することで、今何をすべきかが見えるようになりました。

## 現役生へのメッセージ

上記のように、私が社会人生活で得ている成功体験の多くは、大学で学んだ“地創生”の学びが基盤となっています。学生生活の4年間は、社会人になってからでは決して同じ形で手に入れられない、かけがえのない時間です。だからこそ、常に目標やゴールを持ち、「後悔しないように今を全力で過ごす」ことを大切にしてほしいです。日々の活動一つひとつが、将来の自分の力になります。そして、学生生活を思いきり楽しんでください。

(2025年11月26日執筆)



ラクロス部で遠征に行った時の写真。

1勝しかすることはできなかったが、初めての関東遠征で多くの人と出会うことができました。そして刺激をもらいました。



1年目の社員研修で1位を取った時の写真。私たちの会社では同期同士でスキルやモチベーションを上げあう研修を毎月行い、日々切磋琢磨しています。